

第7回 環境振動評価小委員会 議事録（案）

A. 日 時 2010年6月15日 火曜日 17:30～19:30

B. 場 所 建築会館 会議室

C. 出席者 益田主査、他10名

D. 提出資料（提出委員名敬称略）

No. 7-0 第6回環境振動評価小委員会議事録（案）

No. 7-1 データベース WT 活動方針（案）

No. 7-2 可視化 WT MT 資料

No. 7-3 評価 WT の活動について

No. 7-4 広域実測 WT 活動方針（案）

No. 7-5 夏の新博多駅見学のご案内（暫定）

No. 7-6 新博多駅の防振軌道の設計、施工に関する投稿・発表資料

No. 7-7 都市における広域高密度環境振動モニタリング

No. 7-8 技術研究会講演資料

No. 7-9 欧米における路線上空間の活用事例

No. 7-10 ISO 指針改定に関する資料

E. 議事内容

1. 議事録確認（資料7-0）

◇ 承認された

2. 議論

1) 資料No. 7-1「データベース WT」について議論

◇ データの収集：加振源に関するデータ等の蓄積方法を検討する

◇ データの標準化：風荷重指針や床振動に関しては加振源の標準化がなされているが、その他の項目に関し標準化の有無・問題点等を洗い出す

◇ 事例：実測・シミュレーション等各実測例のデータ蓄積に務める（時系列データがなお良し）

2) 資料No. 7-2「可視化 WT」についてK委員より説明

◇ まずはブレインストーミングを

◇ 説明性の例：強風時に制振装置をOFFに、長周期地震動の発生の危険性など

◇ リスクの可視化：どのような項目を説明する必要があるのか検討、対象者（説明の）別に検討することも

◇ チーム名の見直しを → 「説明性」

3) 資料No. 7-3「評価 WT」についてM委員より説明

◇ 原点復帰：感覚評価のあり方を検討

◇ 「居住性能に関する環境振動評価の現状と規準」の改定

◇ 評価を行う際の留意点の検討：プリミティブな検討項目の洗い出し

4) 資料No. 7-4「広域実測 WT」についてK委員より説明

◇ まずは現状行われている広域実測（地震など）の技術のうち、本委員会として採用可能な技術の洗い出しを行う

- ◇ どのような評価が可能なのかゴールを見据えて検討する手法もあり
- ◇ 広域実測の有効的な活用方法の検討も併せて行う（道路の破損、活断層の発見等）

5) 他

- ◇ 次回シンポジウムの議案を各小委員会にて2案以上提出のこと（現状以下2案）
 - ・ サウンドマップと、GISを利用した広域騒音マップを環境振動に適用する際の可能性と問題点(仮)
 - ・ 携帯通信端末を用いた振動実測の可能性について(仮)など

3. 次回以降の課題

- ◇ 4つのWTにて活動を行い、その結果を小委員会にて報告を行うこと

4. 次回開催予定

- ◇ 2010年10月5日（火）、17:30～ 本会会議室にて

5. 他（連絡事項等）

- ◇ なし